

**図画工作科/美術科学習活動指導案「高さに挑戦(紙工作)」** 対象学年：小学校高学年～高校生

**学習活動時間** 45～50分（導入5分、表現活動35～40分、自己評価5分の設定：表現活動は延長可能）

**児童・生徒数** 20～30人が望ましいが、少人数から100人程度まで実践可能

**題材設定の理由** 表現意欲を高めるために造形的な表現技術の向上は必要であるが、表現活動を通しての“美術による学び”についての自覚や認識はまだ確かなものになっていないと思われる。

競争原理を取り入れた題材「高さに挑戦」は、表現活動に取り組む児童や生徒を楽しませながら、表現の過程で各自のもつ様々な能力や資質が求められ、それらを発揮できた分だけ先に進めるという学習活動の場を提供する。

活動に参加する児童・生徒や、指導する先生方に、日頃取り組んでいる図工/美術の学習には、多くの“学び”が内包されていることに気づかせ、評価視点が広がることを期待して本題材を設定した。

**主な準備物**

教師：画用紙(八切り)、カッター、カッターマット、木工用ボンド、直定規(30cm)、はさみ等

※ 児童生徒数分の材料を準備する。(セロファンテープや輪ゴム等は使用しない)

生徒：教科書、筆記用具

**学びの目標**

- ①八切り画用紙に、切る、折る、曲げる、接着する、組むなどの加工を工夫して、できるだけ“高い造形物”を作る。（“長い造形物”ではない。つまり立たせる必要がある）
- ②紙や道具の特性を理解し、完成をイメージしながら表現手順の構想を練る。また、構造的に強い形のための紙の加工を工夫し、“高い造形物”を求めるための課題解決に励む。
- ③造形表現にはしっかり考える計画性や持続的な丁寧さなどが求められることを知り、時間と手数をかけて表現することの面白さを味わうとともに、学習活動に取り組む意欲を高める。

**造形的な視点**

- ①紙の加工(折る、曲げる)や接合の仕方が強度を生み出すことや、しっかりした計画性と全体を意識した部分の製作が、作品のバランスには必要であることなどを理解する。
- ②表現に行き詰まったときは、これまでの経験を思い出したり、新たな工夫を発想したりすることと、仲間からの情報提供によって課題解決ができることを理解する。

**評価について**

| 評価の観点         | 題材の評価規準例   | A評価のキーワード例                           |
|---------------|--|--------------------------------------|
| 知識・技能         | <b>知</b> 紙や道具の特性を知り、表現に必要な活用方法を理解する。<br><b>技</b> 限られた道具を活用して丁寧に紙を加工し、見通しをもって手際よくイメージを具現化しようとしている。                                | <b>知</b> 紙の性質と加工<br><b>技</b> 道具の活用   |
| 思考・判断・表現      | <b>発</b> 目標達成のために必要なカットや接合について思考し、台に必要な部分を確保しながら構想を練っている。<br><b>鑑</b> 自他の表現を参考にしながら、紙と接着剤の関係や定規の新たな使い方に気づきながら発想や構造の理解を広げている。     | <b>発</b> より強く、より高く<br><b>鑑</b> 柔軟な発想 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | <b>態表</b> 造形的な表現活動の楽しさを味わい、表現から得られる“学び”について気づきながら学習意欲を高めている。<br><b>態鑑</b> 自他の作品から活動の過程を想像するとともに、自己分析を行いながら、自らの新たな目標の示唆を得ようとしている。 | <b>態表</b> 自らの特性<br><b>態鑑</b> 自己分析的に  |

**授業の流れ**

| 活動内容                                  | 指導者の働きかけ  | 評価 | 留意点/評価方法                            |
|---------------------------------------|---|----|-------------------------------------|
| <b>導入： 5分</b><br>①学習活動の説明を受けて題材の目標を理解 | <b>導入説明</b><br>①カッター・はさみで画用紙を切ったり貼ったりして、高い構造物を作りましょう。 |    | 到達目標(高さ)を示さないため、参考作品や過去の画像などは提示しない。 |

|   |  |  |
|---|--|--|
| <p>する。</p> <p>②材料や道具の制限、時間の配分などを考慮しながら、まず何から取り掛かり最終目標を達成するかのイメージを探る。</p>  | <p>②使うことができる材料道具は、画用紙、定規、カッター、接着剤などです。</p> <p>③この題材は“競争”です。最も高い作品を作った人には賞品と写真撮影があります。</p> <p>④紙で長いものを作るのなら、できるだけ細く切った人が勝ちということになります。</p> <p>⑤“高い”ということは、作品が立たなくてはなりません。</p> <p>⑥そのための工夫、つまり土台を考えながら、高い作品を作った人が勝者になります。</p> <p>⑦イメージは、東京タワーやスカイツリーかもしれない。</p> <p>⑧“始め”の合図で開始し、40分後の“やめ”の合図で終了します。</p> <p>⑨終了後、作品を立て、一斉に手を離して10秒間立っていないければ失格となります。</p> <p>⑩作品の高さを計測し、優勝者を決めます。(高さの目安「到達目標」などは示さない)</p> | <p>○授業者は、「最初に画用紙を切り始める人とその時間＝だいたい数分です」、《最後に画用紙を切り始めた人とその時間＝長考》などを記録する。</p> <p>○以下のような観点（造形的な視点）で生徒を見守り、評価の視点とする。</p> <p>*紙をL状に折り曲げる、三角柱・四角柱・円柱にするなど、強度について気づくか？</p> <p>*高さ想定に合わせて、しっかりした土台を作っているか？</p> <p>(◎これまでの最高作品は3m弱です。ただし、生徒には到達目標を示さないで！)</p> <p>*不安定になった作品の補強ができているか。</p> <p>*目標が高くすることにあるか？高さを度外視した構造で作っているか？(美意識か？と思われるようなホワホワ構造になる場合がある＝女子に多い)</p> <p>*他者の作品を参考に、発想転換・構想変更できているか？</p> <p>*他者の作品と比べて高くなりそうにない作品の構造変更ができているか？</p> <p>*画用紙/時間を無駄なく使用し、制作に活かしているか。</p> <p>*土壇場で、無駄な部分を切り取って他に活かすなど、目標達成の“くそ力”があるか？“問題解決能力”じゃぞい！</p> <p>知①</p> |
| <p>展開：40分</p> <p>●“始め！”の合図で活動開始</p> <p>●“やめ！”の合図で終了</p> <p>○手を添えて作品を立て、手を離してから10秒間立っているかを見る。</p>                          | <p>表現活動</p> <p>○ボンドは両面に薄く塗り、少し乾き加減で接着するなどのコツを伝授しても良い。</p> <p>○生徒の協力を得て、優勝～3位程度まで高さを測る(2mほどの棒を準備しておく)。優勝者に賞品を授与し、作品とともに優勝記念の写真撮影を行う。</p>  | <p>知②</p> <p>発①</p> <p>技</p> <p>発②</p> <p>態表</p> <p>Cの状況への手立て</p>  |
| <p>まとめ：5分</p> <p>林立する作品を見ながら相互評価する</p> <p>○優勝者に高くできた秘訣を聞き他者から工夫点などの評価を得る。</p> <p>○自己分析カードの各自が当てはまると思う項目にレ点等を付け、自己分析する</p> | <p>自己評価活動をさせる</p> <p>○指導者が授業中に観察した内容を述べ、個別に、あるいは同タイプの生徒の評価をする。</p> <p>○作品は廃棄するが、表現過程の中に多くの学びがあることを考えさせる。</p>   | <p>態鑑</p> <p>知③</p> <p>①他者の活動を参考とするよう促す</p> <p>②紙の強度についてヒントを与える</p> <p>③紙や道具の適切な使い方について示唆的にやって見せる。</p>   |

知①：発言 知②：活動の様子 知③：発言 発①：工夫レベル 発②：改善力 態表：表現の様子 態鑑：分析の様子